

日本人の小粒化・骨抜き化の原因



廻りの様子をうかがって風見鶏になる、これが今の典型的な日本人の姿
自宅近くの市川動物園で著者の高野が撮影

はじめに

日本人は、江戸や明治そして先の大戦までの人に比べて実に小粒になったと言われています。戦後 75 年にして器の小さい小粒人間だらけになってしまったのです。

それは、戦勝国アメリカの日本弱体化政策に起因していると解釈できます。それに加えて、ほとんどの国民がサラリーマン化してしまっているのです。

サラリーマンは、大企業ほど、へたに頑張っ目立つことをしなければ、



《理事長のコーナー&プレゼン最前線 2019年3月号》

そう！言われた事だけやって、あたらす障らす体制に乗かって、風見鶏をやっていれば定年まで使ってもらえる、いわばこたえられない保護された組織社会なのです。

さて、日本は75年前の第二次世界大戦では、A・B・C・Dすなわち、アメリカ、英国、中国、オランダなどの世界の大国を敵に回し、いわば世界中を相手に戦争をしました。世界に類のないとんでもなく馬鹿げた大国だったのです。

しかも緒戦では、ゼロ戦などの世界一のテクノロジーと鍛え上げられた根性と体躯を誇る戦闘員の能力で、アメリカやイギリスをして、降伏をさせるのではないかと思われるくらいの戦果を出したのです。

そんな日本ですから、戦後即設置された、日本植民地化政策総本部のGHQは、戦勝国のアメリカに対して、二度と刃向わない様にと、徹底的な日本人弱体化政策をとったのです。

1、日本もアメリカと同時期に原爆を作り始めていた

実は、あまり表ざたになっていないが、アメリカと同時期に原爆まで造っていたのです。アメリカに開発競争のスピードに負けて、先に広島と長崎に落とされたのです。もし日本が先に製造に成功していたら世界の流れが激変していたでしょう。

これは余談ですが、私の大学時代の研究課題は「熱拡散」といって、ウラニウム原石からU-235を濃縮し、原爆や原子力発電の原料や燃料を作る基礎研究でした。だからアメリカの原爆研究製造所（マンハッタン計画）をよく知っています。

ウラニウム235の原子核は中性子を吸収すると2つに分裂します。また、この際に2個ないし3個の中性子を出し、それによってさらに反応が続くのです。

原子力発電では多量の中性子を吸収するホウ素、カドミウム、ハフニウムなどでできた制御棒で反応を制御しています。核兵器では反応は制御されず、大量のエネルギーが一気に解放され核爆発を起こすのです。

2、アメリカの戦後の日本人弱体化3S政策

米国GHQによる日本占領政策の中に一本の柱として3S政策がありました。本家本元のアメリカの公文書館から確かな証拠が噴き出ています。



《理事長のコーナー&プレゼン最前線 2019年3月号》

アメリカには50年経ったら、すべての国家秘密に類する機密文章をも開示しなければならないという法律がありますから、戦後75年にして次々と第二次世界大戦前夜の国際的なスパイ活動や悪事が露呈しています。

「日本を真珠湾攻撃に引きずり込んだ元凶はアメリカである」・・・という主張も、まんざら嘘ではないようです。

さて、3S政策とは、

- 1、スポーツの奨励 (Sports)
- 2、セックスの解放 (Sex)
- 3、Audio、Videoの奨励 (Screen) の事です。

すなわち、これらは日本国民を愚民に、そう！馬鹿にして二度とアメリカに刃向かせない、骨抜きにする為の政策だったのです。

やり方は、大衆を娯楽に夢中にさせて政治に関心を向けさせないで、日々の労働の辛さを緩和する鎮痛剤を大量に浴びせるやり方を取ったのです。

思い起こせば、欧米のアングロサクソン人が、オランダの東インド会社を中心に、清国（旧中国）をアヘン漬けにして植民地化したのと似ています。

「今日の仕事とは辛かった、後は焼酎をあおるだけ！」という歌がありましたね。そんなノー天気な思考能力を弱めたサラリーマンだらけの国にしたかったのです。

戦後の日本人は、しっかりそれに乗せられて、今や喰い物や、おふざけや、ポルノ&スポーツ&暴力番組にドブプリ漬かった愚民になってしまっています。

実はその政策を立案したのは、ルーズベルト政権下でニューディールを実施したいいわゆるニューディーラーと言われる人達で、彼らは国際共産主義者（コミンテルンのスパイ）であり、ほとんどがユダヤ人だったと言うのです。

3、日本のマスコミはアメリカのコントロール下にある

そしてもっとも困ったことに、今NHKを初めとする日本のメジャーなテレビや新聞は、世の中に起こっている真実を伝えられないでいます。証拠がないことは伝えられないという理屈の元に、表面的な差し障りのない体裁の良い嘘ばかり伝えています。

なぜならば、USの日本統治の陰の力、システムとでも呼ぶべきか、見えない



《理事長のコーナー&プレゼン最前線 2019年3月号》

強力なコントロール機構と、番組を金で買っているスポンサーに首根っこを押さえられているのです。

私は大手外資系3社でマーケティング部長や事業部長をやり、いくつかのコマーシャルを作ったり、SR (Social Responsibility) という名目で社会に対する情報コントロール活動をしました。

事業部のトップのポストにいたときは、自社に不利益な情報を封じ込める活動に多大なお金を投下したのです。すなわち、テレビの放送内容はお金で如何様にも造れる現実を目の当たりにし、自分で行使したのです。

そんな経験の中でテレビ局や大手エージェンシーが如何にスポンサー企業に頭があがらないかを経験的に学びました。私自身も大手テレビ局の、あるキャンペーンを金の力で止めた事があります。会社にとって多大な不利益をこうむることが明らかなキャンペーンだったからです。

今の日本は、ある意味でお金万能時代と言えるかも知れません。悲しいかな日本人は、戦後のアメリカの金権主義の影響を受けてお金至上主義になってしまっています。

おわりに

いみじくも、例のホリエモンが豪語しましたね。「お金で買えない物は無い」と。そうなんです、今やとんでもなく社会規範や文化が金権主義に毒されて、腐りかけて腐臭を放っていると言っても過言ではありません。私が一番気を病んでいるのは、若い男女の性の乱れです。

AKBのタレントレベルの可愛くて知的な女性が、数万円のお金で貞操を売り飛ばし、あられもない姿をアダルトビデオで晒しているのです。

亡くなった方に砂をかけては失礼かもしれませんが・・・、非業の死を遂げた例のポルノ女優、飯島愛を思い出します。今や国中が飯島愛の様なポルノ女優だらけになってしまっています。

私は政府が関与して、AV (アダルトビデオ) などの性の乱れを正さなければ若者がダメになってしまうと心配しています。子供たちのスマートフォンの使用も限定するべきです。

これ等は正に先に書きました3S政策が根付いたものです。
(下記の2、と3)



《理事長のコーナー&プレゼン最前線 2019年3月号》

GHQが戦略的に根付かせた3S政策

- 1、スポーツの奨励 (Sports)
- 2、セックスの解放 (Sex)
- 3、Audio・Videoの奨励 (Screen)

このままでは日本の文化は破壊されます。
日本は江戸や明治そして、戦前まであった日本人特有の道義文化を取り戻さなければいけません。

私は武道家として武士道の本も世に出しています。
日本人のよりどころは武士道文化です。
武士道文化の復興は難しいことではないと思っています。
というのはすべての日本人の体には、今でも歴然として武士道文化が根を張って血肉化されているからです。



次は2019年4月15日号に続きます。